

# 朝鮮石人像を訪ねて (40)

深田 晃二

## ☆ 京都・長楽寺 ☆

人気のあるSNSフェースブックで、プロフィール写真に石人像と一緒に写った写真を使っている人が過去に3人いた。1人は韓国の友で韓国内の石人像と、1人は西三陵での私、そしてもう1人日本にいた。いまだに使っているのは私だけであるが。

いつか山根さんが日本にいるその人に撮影場所を聞いてくれて「長楽寺」との返事が返ってきた。ネットで探すと、京都「長楽寺」が出てきた。ある日、期待して京都円山公園北東の長楽寺を訪問し、拝観料を払って入ったが石人像は一体も無かった。落胆しての帰り道、円山公園で坂本龍馬と中岡慎太郎の銅像を初めて見ることができたので良とした。

後日、返事をくれた人が名古屋の人であることを思い出し、再度ネット検索して「名古屋・長楽寺」があることを知った。お寺の名前はユニーク（全世界、全国で一つ）ではないことを再認識した次第である。

## ☆ 名古屋・長楽寺 ☆

(N35.10534, E136.93210)

近年、各地の自治体を訪問する仕事が秋から年度末にかけて数回あり東京以西ではあるが出向いている。有難いことである。1月26日には名古屋近郊の都市に行く機会があった。前日は全国的に寒い日で新幹線は40分ほど遅れていたので、当日も関ヶ原あたりの雪による遅延を心配しながら朝早く家を出た。雪もたいしたことではなく、30分ほど余裕が出たので、以前から気になっていた名古屋・鶴舞公園そばの名大病院と名古屋工業大学まで散歩して場所を確認してきた。



↑ 名大病院



名古屋工業大学 →

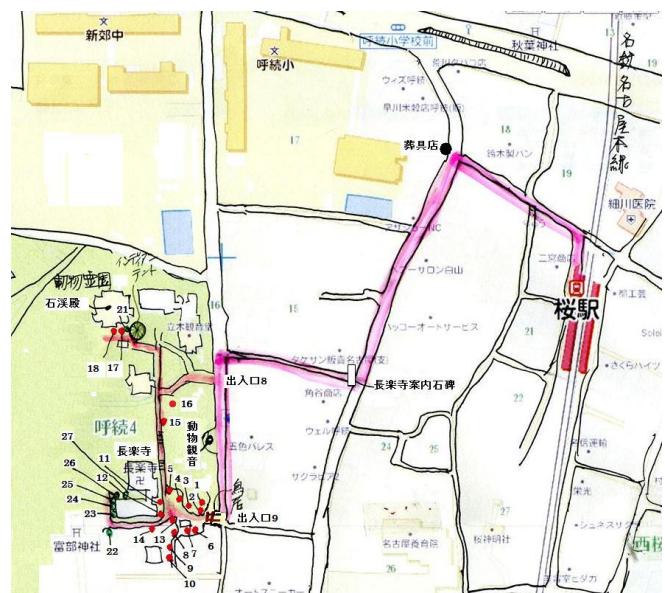
仕事は5時前に終わり、かねてより計画していた名古屋長楽寺を訪問した。

名古屋駅から名鉄名古屋本線「桜」駅下車。東へ徒歩約10分「呼続（よびつぐ）公園」内にある。

冬の日の日没は早いので出来るだけ明るい内に見つけたい。最近どこに行くにも事前にGoogle Mapのストリートビュー（人形マークを道路上に移動して360度実写の写真で見る事が出来る）で町並の画像をみて

おくと迷うことなく行けるので利用している。韓国の町並などはGoogle Earthのストリートビューで同様に利用できこちらも大変便利である。現地では方位磁石が必需品である。今回も持参し活用したが、1番から14番の大量の石人像遭遇に興奮して、写真を撮るのに夢中になってどこかに落としてしまった。帰りがけに駅までの道を確認しようとした時に気づいて、大量遭遇の場所まで戻ってみたが発見できず。

桜駅から北西に行き葬具屋さんを左に曲がり南進、100m程で右手に「長楽寺」の石柱があるのでそこを右折、50m程で公園出入口8番に突き当たる。私はここから入って広い境内を探し歩いて、多くの石人像に巡り会った頃には日が暮れていた。ルートとしては出入口9（赤鳥居）から入り北に行き出入口8から出るのがお勧めである。



## ☆ 石人像が18体 ☆

「たまにはハタから見ていて安心できる様に仕事をしてよ」と家人に言われながらのいつもの泥縄生活の典型だが、ぬくげ印刷5日前の訪問であった。

赤鳥居を入ると右に曲がる道と正面道の間のしげみに3体の文人像（1,2,3）がある。さらにその先にも文人像2体（4,5）。5番の像が境内で一番大きい文人像である。フェースブックで見た像に間違いない。

左手には手水舎があり、その手前に2体（6,7）。



更に左に行くと、小形が1体(8)、社殿を背にして前方を向いている2体(9,10)が有る。



ここ長樂寺は動物靈園で有名なようで、ペットを亡くした人が平日の夕方でも複数訪れていた。外周道路の出入口8と9の間には高さ4m程の動物供養観音像が犬猫像を従えて立っている。

境内には社殿の数も多く、南端に2棟繋がった本殿、8番出入り口突き当たりに1棟、北端には動物の慰靈場所「石渓殿（達筆のため二文字目の漢字はあやしい）」がある。

南端の2棟連結の南側の建物の前に、向かい合った文人像（11,12）がある。

本殿から北に向かうと階段があり低地に下りる。低地から登り階段を上ると小形文人像（15）がある。その奥の草むらにもう1体（16）ある。

石渓殿の前にはなぜか「アメリカインディアンのテント」があり、その並びに濟州島の法首と思われる石人像が2体（17,18）が清楚な感じで置いてある。



### ☆ ここにある由来 ☆

このように1箇所で10体を越える石人像が有る場所は全国でも十指に入ると思われる。

石渓殿の受付の女性に石人像について聞きたいというと、若いお坊さんが出てこられた。石人像の由来について尋ねると、現住職さんが知り合いの石屋さんから手に入れたことぐらいしか分からない、住職はいま海外旅行中で不在とのことでこれ以上詳しい話は聞き出せなかった。

追加の情報として、6月5日に日が決まっているわけではないが、その前後に石人像の慰靈祭をしているとのことであった。お寺だけに仏式での法要を営むそ

うである。このような催しが石人像の為に行われているのは初耳であり、新鮮であった。

### ☆ その他の石造物 ☆

地図の21番は足の付いた手水鉢、26番は顔を彫り込んだ丸っこい石（顔がだるまさんの様なのでこれは日本製なのかも知れない）。



21番・手水鉢

26番

22～25は灯籠である。22番は一般的な墓前に備え置く長明灯である。23～25番は火袋の下が柱状（竿）になっていて春日灯籠風であるが、獅子が火袋を支えている（23番）点や、亀趺の上に龍が竿にからみついている（25番）点からみて、半島由来の物のように見受けた。



22番

25番

24番

23番



27番は東京・大倉考古館にある利川石塔を小ぶりにしたような、立派な5重の石塔である。

立木觀音堂近くの十三重石塔と合わせ、本当に多くの石造物があつめられていて感心する。

### ☆ まとめ ☆

これだけの石人像・石造物を集めるのは並大抵では出来ないし、多分知り合いの石家さん一軒だけからの仕入ではないであろう。今回はその全貌を表したかったので、写真が小さくなるが、見掛けた全ての物を表示した。  
(続)

